

III. 自然観察学習園の植栽

観察園当初は、柑橘類はアゲハチョウの観察するために植えられるなど、子どもたちが都会の中でも自然にふれることのできる環境づくりを念頭に、教務の先生、PTA、園芸クラブと一緒に苗木や球根などが買い求められたようです。その後、学校管理のエリアと地域園芸クラブの活動エリアに分けられ、地域園芸クラブでは割り当てられた用地に子どもたちに見せるための季節の花や野菜を植え、教科書の中ででてくる植物が学校内で見るようにすることを大きな目標としています。

(1) 樹木

さくら、みかん、ゆず、きんかん、かりん、くぬぎ、はなみずきなどが
あり、秋には紅葉を愛することができます。



(2) 草花

観察園では種まきや球根の植え付けをしたチューリップやヒヤシンス、パンジーなどだけでなく、自然に生えたつくし、たんぽぽ、よもぎ、エノコログサ、おおいぬふぐり、ごぎょう、ほとけのざ、クローバー(シロツメクサ)など。初夏から夏にかけて、あじさい、ひまわり、グラジオラス、矢車草など。その後コスモスや秋の七草(萩、おみなえし、河原なでしこ、桔梗、フジバカマ、すすき)やわれもこう、ひがんばな、すいせんなど、四季の彩りを楽しめます。

(3) 野菜(なにわ伝統野菜、トマトなど)

平成21年(2008)、「天王寺かぶらでっせ」や「なにわ伝統野菜のおはなし」の絵本を書かれた志村敏子先生のご家族がクラブ員になられた関係から天王寺かぶらと田辺大根の種まきをし、初めてなにわ伝統野菜を収穫し、味わうことができました。翌春、天王寺かぶらが黄色い花を咲かせ、菜の花であったことに気付かされました。

この年(2009)、地域園芸クラブは ESD(持続可能な発展のための教育)の実践を念頭に「なにわ伝統野菜」の栽培を進めることとなります。なにわ伝統野菜応援団・天王寺かぶらの会や田辺大根ふやしたろう会など復活にとりくんでいる団体の方々やなにわ伝統野菜生産者農家の方から種や苗をわけていただいています。そうした方々に自然観察学習園アドバイザーになっていただき、子どもたちだけでなく大人も学びながら植栽をすすめてきました。なにわ伝統野菜は大阪の歴史や文化、環境を学ぶことのできる ITEM で、勝間南瓜、玉造黒門越瓜、毛馬きゅうり、吹田くわい、金時人参、うすいえんどう、難波ねぎなど。また水なす、泉州玉ねぎなどの大阪の特産物のほか、トマト、枝豆やスイカ、水菜、ジャンボ・カボチャなど、その年、その季節でのチャレンジは続いています。



3.お茶の会の準備として

苗木を植えた児童もいよいよ6年生。木は茶摘みができるほどに生長しました。お茶の会を実施するにあたって、学校(授業をしてくださる先生方)と地域(お茶の木管理担当、地域園芸クラブ)と共に事前学習として京都の祇園辻利本社さんの元へ学習に伺いました。



お茶の淹れ方も教えていただきました



えいさいぜんじけんしょうちやひ
栄西禅師顕彰茶碑にて



地図記号の
『茶畠』
は、お茶の種の
配列からきて
いるそう

←たくさんの種類のお茶の葉
建仁寺の開山である栄西禅師は宋から日本に茶の種を持ち帰り
日本に茶を飲む習慣を広めたと伝えられています



また、児童が飲むためのお茶の葉を作りました。
茶摘み→茶葉を洗う→炒める→揉む→乾燥

1時間くらい炒めて揉みます

4.お茶の会

卒業も近づいた冬の日の2時間目、6年生全クラスが体育館に集まりお茶の会が行われました。



先生のお話 お茶の種類をクイズ形式で学びます

お茶の会プログラム

- 1 先生のお話
 - 2 園芸クラブの方からのお話
 - 3 苗木を植えたころからのビデオを見る
 - 4 体験学習(3グループに分かれロー)
- ① 現在のお茶の木を見る
 - ② さまざまなお茶の葉を見る
 - ③ 育ったお茶の木の葉から作られたお茶を飲む
- 5 校長先生のお話



自分たちが植えたお茶の木。
その葉から作られた味は
どんなだろう。

100人分を超えるお茶を
急須でおいしく!

記念に
お茶の葉を

II. 自然観察学習園のようす



5.お茶の会を終えて（児童の感想より抜粋）



・1年生の時、5年後飲めるといいねということですと楽しみにしていました。お茶を飲めたのは、校長先生や園芸クラブのみなさんが、お茶の木を守ってくださったからだと思います。本当にありがとうございました。どんな味か気になりお茶を飲んでみるとすごくおいしかったです。お茶の木を見た時、優しく葉っぱをわたしてくれた時すごくうれしかったです。(Tさん)

・1年の時に植えた時より、木がすごく大きくなっていて、本当に植えた物と同じか疑うくらい大きくなっていた。少しにがかったけど、お茶として飲めていてすごくおいしかった。台風の時も地震の時も木を守って下さってありがとうございました。(Nさん)

・お茶の葉を発酵するかしないかで種類が変わることが勉強になりました。私は緑茶が一番好きです。(Sさん)

・お茶の種類は、葉っぱにテントをかぶせるだけで、ちがう種類ができるのだと教わりました。また、私たちが1年生で植えたお茶の木を見て、私たちがこれを植えたと思うと、とても生長したなと思いました。(Kさん)

「たんぼ」からあふれた水はあたりを潤し、川から2つの池へ水が注がれます。阪堺線の枕木の廃材を利用してつくられた段々畑にはなにわ伝統野菜やいちごやトマトが植えられ。西運動場の芝生に面した子どもたちからよく見えるところにはお茶の木や秋の七草をはじめ四季折々の花が栽培され、あおむし～蝶々、ヤゴ～トンボ、バッタやカマキリなどもみつけることができます。



たんぼや池や川も、改修や池の増設・修理などを経て、昨年度には阿倍野区の10校の小学校の管理作業員さんによって池がきれいに生まれ変わりました(2017)。今年度(2018)はプールの工事に伴い西運動場への子どもたちへの往来が限られていますが、設立当初に目的とした「潤いある観察園」が持続されていて、まさにESD(持続可能な発展のための教育)が実践されている環境教育の場となっています。